

# 食味が良く、いもち病に強い水稲新品種「山形95号」の育成

山形県農業総合研究センター 水田農業試験場

## 研究のねらい

良質で良食味の米を安定的に供給できる産地づくりを進めることによって、県産米の評価向上を図っていく必要がある。また、県内における有機栽培は、個々の農家の取り組みから、最近では組織的・地域的な取り組みまで拡大してきている。そこで、より安全で安心なおいしい米を求める消費者のニーズに対応が可能な、収量・品質・食味が安定して優れ、かつ農薬使用量を削減できる新品種を育成する。

## 研究の成果

- ①出穂期が「はえぬき」より1日早い“中生の晩”で、「はえぬき」に比べて千粒重がやや重く、収量性が高い（表1）。
- ②いもち病に対する抵抗性が強く、穂いもちが激発する条件でも、「はえぬき」に比べて、穂いもち被害度が低く止まり、収量を安定して確保できる（図1）。
- ③玄米の外観品質は白未熟粒の発生が少なく、「はえぬき」並に良質である。食味は、特に炊飯光沢が優れ、「はえぬき」並の良食味である。

表1 「山形95号」の特性

品種・系統名	出穂期 (月・日)	稈長 (cm)	収量 (kg/a)	同左 比率 (%)	千粒重 (g)	耐倒伏性	品質	食味
山形95号	8.06	78	58.5	107	23.6	中	上上	上中
はえぬき	8.07	68	54.7	100	22.3	強	上上	上中

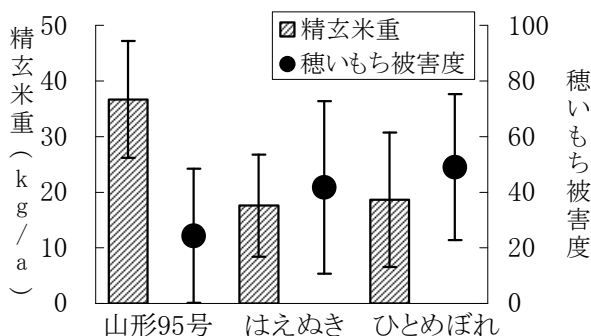


図1 穂いもち激発圃場における生産力検定試験  
(穂いもち検定圃場 平成16~21年の平均)  
穂いもち被害度 = 首いもち発病率 + 1/3以上枝梗いもち発病率 × 0.66  
+ 1/3未満枝梗いもち発病率 × 0.26



写真 成熟期の草姿

問い合わせ先：水稲研究科 Tel0235-64-2100

e-mail ysuidenshi@pref.yamagata.jp